



元気いっぱい月輪っ子



みんなで取り組む感染防止対策

これまで、本校において、感染者が出ていないのは、地域・保護者の皆様のご理解と感染防止対策への取り組み、学校における考えうる限りの感染防止対策の賜物だと考えております。

しかし、現在、全国ならびに、福島県では、新型コロナウイルス感染症の新たな感染者が増加傾向にあります。この状況を鑑みると、今後も誰一人として気を緩めることなく、これまでの感染防止対策への取り組みを徹底していくことが肝要だと思います。

何度も目にしたり、聞いたりしたことかとは思いますが、以下の点の取り組みを徹底し、子どもたちの健康の保持、安心・安全と学びの保証につなげてまいりたいと思いますので、再確認と対策の徹底へのご協力をよろしくお願いいたします。学校でも指導してまいりますので、ご家庭での子どもたちへの声かけもよろしくお願いいたします。

①手洗いの徹底

活動の前後、帰宅時、食事前などのこまめな手洗いを習慣づける

②咳エチケット

マスクの着用をこころがける。今の季節、熱中症の心配はほぼないと思われまます。常時着用を基本とします。(食事時以外)



③3つの「密」を避ける

換気を心がける。同じ室内に大勢で集まらない。マスクを外した状態での間近での会話や大声を出すことは避けるようにしましょう。

④人混みを避ける

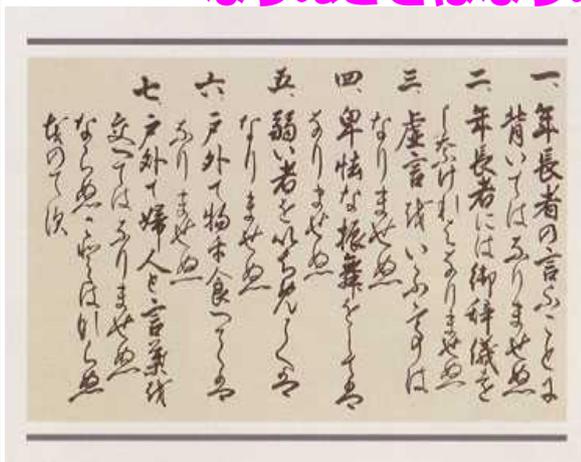
今が我慢のしどころです。本当に必要なことか考えて、できるだけ人混みへ行くことを避けるようにしましょう。



⑤発熱、風邪様の症状があるときは無理をしないで休む

発熱があるときはもちろんのこと、せきやくしゃみが続く、鼻水が止まらない、なんとなくだるいといった、風邪のような症状があるときには、無理をせず自宅で休むことが大切です。症状の早期回復と感染拡大防止のためです。また、家族内で風邪様の症状がある方がいる場合は、症状がなくても、万が一に備えて、登校や出勤をせず自宅待機をすることも大切です。このような場合、まずは学校へお電話ください。相談の上、児童は欠席ではなく出席停止とします。

ならぬことはならぬものです。差別・偏見



「ならぬことはならぬものです」とは、かの会津藩の教えの基本である「什の掟」の締めくくりにある言葉です。昔から、人としてやってはいけないことは、何があってもやってはいけないと教えていたことがわかります。

現在、国内はもとより、福島県内でも新型コロナウイルス感染症の感染者が急増している状況です。いつでも、どこでも、だれもが感染者、濃厚接触者になっても不思議ではない状況だと思われまます。誰も好んで、感染者や濃厚接触者になりたいと思っはけません。しかし、感染防止対策に十分に気を付けても感染を100%防げるとは言い切れません。このような状況の中では、感染者あるいは濃厚接触者になってしまう可能性は誰もが0ではありません。

ここで皆さん、冷静に考えてみてください。感染防止対策に十分に気を付けていたにもかかわらず、

感染者、濃厚接触者となってしまった時、一番大変でつらい思いをするのは誰でしょう。当事者です。その、当事者を差別したり、偏見の目で見ようようなことは、絶対にあってはなりません。

これまでも、風邪やインフルエンザ等で具合が悪い人、休んでいる人を気遣ったり、早い回復を願ったりすることはあっても、差別や偏見を持つことはありませんでした。新型コロナウイルス感染症に関しても同様にしていく必要があります。学校でも、子どもたちの発達段階に応じて、適切な指導をしてまいりますので、御家庭でも話題にして、話し合っただければと思います。よろしくお願いいたします。

最後にもう一度「ならぬことはならぬものです」

※月輪小 HP のブログでは、カラー版の学校だよりをご覧ください。子どもたちの様子も毎日更新してアップしておりますので、ぜひご覧ください。